

「晴天のもと、歴代最高ラップ数を記録」



チーム単位でのエントリーも増加

2013K 耐久/GT 耐久東海シリーズ第2戦 GT 耐久は、25台のエントリーにより、愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。

排気量区分改定のシーズンの第2戦は、新規参加チームも現れ、さらに戦いはヒートアップ、シーズンの流れをつかむチームはどこか。

午前中は夏を思わせる天候、心配された雨は少なくとも午前の間は大丈夫のようだ。

「1 + 2 C」クラス(1500cc および特認 1600cc 以下の NA 車と、1200cc 以下の過給機付き車のクローズドクラス)

初出場で衝撃的な速さを見せつけ、優勝をさらった#88の菱木シビックは欠場。だが、NCP13のヴィッツ 1500がニューエントリー。初参戦の走りはいかに。

■予選

1000のヴィッツが2台、ニューエントリーの1500ヴィッツ、そして1500シビック、1600のNA型ロードスターと5台のエントリー。予選クラストップは#92「ワンナイヴィッツ」が1'08.929、ヴィッツ対決の先頭。2番手には#50「TeamKRS 制動屋ヴィッツ」1'11.747、新規参加としてはまずまずの好位置、チームとしては経験豊富なTeamKRSの面目躍如。

3番手は初参加#107「トータルセブンロードスター」が1'13.538、その横にはチームメイトの#70「トータルセブンシビック GT」が1'14.528でつけ、最後尾は#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」で1'15.033で全車決勝へとコマを進めた。

■序盤

#92「ワンナイヴィッツ」を先頭に2番手には#70「トータルセブンシビック GT」が上がり、#50「TeamKRS 制動屋ヴィッツ」は3番手に。#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」が4位を走行し、#107「トータルセブンロードスター」は少し出遅れたか最下位となっている。とはいえ、1時間経過しての上位勢のラップ差は少なく、4位までは2周差に入っており混戦模様。

■中盤

僅差の争いというのはレースの半数を迎えた、1時間半を経過しても変わらずだが、トップに立っているのは#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」、それを同ラップで#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」が追っている。さらに1Lap差で#70「トータルセブンシビック GT」がつけ、ここまでが上位グループを形成。

4位#50「TeamKRS 制動屋ヴィッツ」は3Lap差、最下位#107「トータルセブンロードスター」7Lap差となっている。最下位に沈んでいる#107だが、序盤ほど差が広がらずペース自体は悪くない模様で後半戦の巻き返しに期待。



嬉しい初優勝！ 金色がまぶしい #92



自己最高位をマークし2位 #70



午前中は初夏らしい天気にも恵まれた

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

2時間経過で#92「ワンナイヴィッツ」がトップを奪い返し、#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」に2Lap 差をつける。3位走行も#50「TeamKRS 制動屋ヴィッツ」でヴィッツ同士のトップ争いがみられる。4位#70「トータルセブンシビック GT」、5位#107「トータルセブンロードスター」とトータルセブンチームが並ぶ。

間もなく2時間半を迎えようかとした頃、#50「TeamKRS 制動屋ヴィッツ」が1コーナー先でコースアウト、この日初めてのセフティーカーの出動となる。これにより#50は大きく順位を落としてしまう。

■最終結果

勝利を手にしたのは#92「ワンナイヴィッツ」、終盤からはトップを譲らず、一昨年の参戦以来嬉しい初優勝！2位は#70「トータルセブンシビック GT」で開幕戦より一つ上がり、自己最高位を獲得。3位には#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」が入り開幕戦リタイヤの雪辱を果たした。

4位は#107「トータルセブンロードスター」、#50「TeamKRS 制動屋ヴィッツ」は最下位ながら完走を果たした。

■総評

セフティーカーの出番が少なく、ラップ数が伸びた今回のレース、その中で表彰台に上がった3台は3Lapのなかに入る混戦だった。初優勝の#92「ワンナイヴィッツ」、自己最高位の#70「トータルセブンシビック GT」、優勝経験もある#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」など実力伯仲の戦いで、4位の#107「トータルセブンロードスター」もレース中のLapは10秒を切り、また最後はコースアウトに沈んだ#50「TeamKRS 制動屋ヴィッツ」だったが上位を走るポテンシャルもあり、次戦以降も緊張感のある戦いが続く。



前戦から復活の表彰台 #27



表彰台まであと一步 #107



5ドアのRS #50



耐久ならではの義務ピット





5月といえど暑さは大敵



わずかコンマ 03 秒差！ 初優勝 #880



大冒険の結果は 2 位！ #450



開幕戦に続き表彰台 #33



ヨーのコントロールに利くそうです

「3C」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクローズドクラス）

3Cクラスは、今大会12台のエントラントが集まる激戦区となった。どのチームも実力伯仲でどこが勝ってもおかしくないポテンシャルを持っている。その中でも開幕戦を制した#62「RTカーライフ名古屋WN CLNシビック」や#33「ボディショップ國盛ミラーージュ」あたりが中心か？それらに#111「S'tecAE-1ファジートレノ」や、あるいはスターレットターボあたりがどう絡むかが勝負のポイント。

■予選

予選でトップタイム記録したのは「ト#450「トルネオの大冒険」1' 03.106。開幕戦ではマシントラブルで走れず、そのポテンシャルがベールに包まれていたこともあったが、ユーロRをベースのこのマシンにスイッチした KIT-CC 中部 OB チームがみごとクラス一番時計。

2位以下は僅差の争い、2位は新規参加の#87「瀬戸自動車 SYC シビック」が1' 03.457、3位#33「ボディショップ國盛ミラーージュ」1' 03.645 と続く。4位は開幕戦のウイナー#62「WN CLNシビック」1' 03.987 でここまでが03秒台。

以下 5 位#880「カーワークス CCMC シビック」は OP クラスからチェンジして1' 04.140、6 位#106「D&M スパイクオート 106」1' 04.233、7 位#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」1' 04.422、8 位#301「ねぎプロ Z トレノ」1' 05.377 でここはトレノ対決、9 位#91「BRP スターレットターボ」1' 05.721、10 位#1「ミュルサンヌ MR-S」1' 08.078、11 位#75「DXL SPM シーワン EP82」1' 08.872、クラス最後は予選序盤にコースアウトしてしまった#72「SWEET SIGNAL パルサー」1' 09.867 で全車決勝進出。

■序盤

序盤クラストップは#450「トルネオの大冒険」、それを#87「瀬自動車 SYC シビック」が追う展開、3位は#880「カーワークス CCMC シビック」、4位は#62「WN CLNシビック」と上位陣はすべてホンダ車。5位には#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」が続いた。

1時間経過でもこの傾向で、6位#33「ボディショップ國盛ミラーージュ」、7位#72「SWEET SIGNAL パルサー」、8位#106「D&M スパイクオート 106」、9位#75「DXL SPM シーワン EP82」、10位#301「ねぎプロ Z トレノ」、11位#1「ミュルサンヌ MR-S」、#91「BRP スターレットターボ」だが、この直後#1 はリタイヤとなった。

■中盤

中盤になっても#450「トルネオの大冒険」はトップをキープ、それを追うのが#880「カーワークス CCMC シビック」となり、この2台はこの後終盤まで激しい争いを繰り広げることになる。

3番手争いは#33「ボディショップ國盛ミラーージュ」と#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」に#87「瀬戸自動車 SYC シビック」が加わりホットハッチ対決。前戦優勝#62「WN CLNシビック」が少し伸び悩んでいるだ。

なお、#91「BRP スターレットターボ」も残念ながらリタイヤとなっている。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

2時間経過で、#450「トルネオの大冒険」と#880「カーワークス CCMC シビック」は同ラップでつばぜり合い。#33「ボディショップ 國盛ミラージュ」と#111「S'tec AE-1 ファジートレノ」は1Lap 差で食らいつく展開。この時点で上位陣は100周以上を周回するハイペース。そのなかでのこの僅差はまさに大接戦。

2時間半を過ぎても状況は全く同様だ、通常ならゴールをするような120周を越えても、1~2Lap でのバトル、少しのミスが勝負を分ける、最終盤まで集中力を切らさないチームが栄光を手に行ける。

■最終結果

最後の最後に笑ったのは、#880「カーワークス CCMC シビック」、他クラスの要因で入ったセーフティカーからのリスタートを利用し、逆転した#880が見事勝利をつかんだ、#880はクラスチェンジで初優勝。

惜しいのは#450「トルネオの大冒険」、最終盤まではゲームタイトルをもじった車名のごとく大冒険を繰り広げたが最後は2位、それでも大きなインパクトを与えた。3位は#33「ボディショップ 國盛ミラージュ」、ここまでは138Lapで同一周回。

4位#111「S'tec AE-1 ファジートレノ」、5位#87「瀬戸自動車 SYC シビック」、6位#106「D&M スパイクオート 106」、7位#75「DXL SPM シーワン EP82」、8位#62「WN CLNシビック」、9位#72「SWEET SIGNAL パルサー」、10位#301「ねぎプロZ トレノ」でここまでが完走。

ポイント争いでは#33「Team 海老天」が37Pでトップ、#62「RT カーライフ名古屋」が33Pで2位、#111「チーム AE-1」が32Pと力のあるチームが接戦となっている。



雨を待ってたか #111



初参加でクラス5位 #87



コントロール性が自慢 #106



ターボ車は熱的に厳しいか #75



前戦優勝の #62 今回は8位



秘めたポテンシャルを発揮したトルネオ



チェッカーぎりぎりまで大接戦



満身創痍ながら9位で完走 #72



見事完走 #301



■総評

OP や K 耐久で活躍した#880「カーワークス CCMC シビック」は嬉しい初優勝だが、#450「トルネオの大冒険」も侮れないポテンシャルを発揮、2200 の基本5ナンバーサイズの4ドアセダンは今の規格で見ると比較的コンパクトで、スパ西浦のコースにマッチしている。レース中の最速ラップも02 秒台を記録するなど、速さも申し分なく今後の台風の目となるかも。

また、#87「瀬戸自動車 SYC シビック」も初参加ながら一時は上位を走行し、02 秒台の最速ラップを刻むなど、こちらも侮れない実力の持ち主。

結果として雨が降らなかったことにより、パワー的に苦しいトヨタ車や、熱的に厳しいターボ車には不運だったかもしれない、しかしながらどのチームも豊富な経験があるので、次戦はより緊迫した戦いが予想される。



ご家族でグリッドガールズ(?)をお願いしました。



今まで勝ってなかったのが不思議 #6



今回はしっかりとポイントゲット #18



連続表彰台で好調をキープ #19



4位に入りシリーズランキングは首位と同点

「OP」クラス（排気量区分なしのオープンクラス）

排気量区分なしのOPクラス、今大会は9台のエントリー。開幕戦の勝者で、昨年王者の#110「アライメント浜松シティー」が開幕ダッシュに成功するか。それに挑むのは#18「T-BODY エクセルインテグラ」、#6「ペンズフレミング シビック」、#19「YADOKARIシビック」といった実力派の面々。初夏をのスパにエンジン音がこだまする。

■予選

まず予選とったのは今回も#18「T-BODY エクセルインテグラ」1'01.209、2戦連続で総合PPを獲得、やはり今回もその韋駄天ぶりは健在。だが今回は2位の#6「ペンズフレミング シビック」が1'01.536とコンマ3秒まで詰め寄りフロントローに並ぶ、以下#110「DXLアライメント浜松シティー」1'01.750もシーンベストで2列目を確保、4位#19「YADOKARIシビック」1'02.961でこれもシーズンベスト。さらに5位の#15「キチキチ キッシースターレット」1'02.983までが2秒台に入れ激しい予選となった。

6位#84「浜松日産withメビウスマーチ」1'04.924、7位#9「くねくね男前定食シビック」1'05.493、8位#22「NAHレーシングロードスター」1'07.118でグリッド確定。

■序盤

スタート後まもなくトップに立ったのは#110「DXLアライメント浜松シティー」、2位の#6「ペンズフレミング シビック」と一歩後退した#18「T-BODY エクセルインテグラ」を引き連れ周回を重ねる。4番手には4位#19「YADOKARIシビック」でここまでは1周差に収まり、激戦の予感。

以下5位#15「キチキチ キッシースターレット」、6位#9「くねくね男前定食シビック」、7位#22「NAHレーシングロードスター」と続く。8位#84「浜松日産withメビウスマーチ」は時折スロー走行となるなど調子が上がってこない様子。

■中盤

義務ピットも解禁され、各チームがそれぞれの戦略を実行し始めた中盤戦でも上位4台は僅差の戦いを繰り広げる。1時間半の周回数をみると、ここでトップに立っているのは#18「T-BODY エクセルインテグラ」で80Lap。好天にも恵まれ数多くの周回数を記録している。2位にも80Lapで#19「YADOKARIシビック」がつける。3位は#6「ペンズフレミング シビック」、4位#110「DXLアライメント浜松シティー」はともに78Lapとその差はわずか。

5位には#9「くねくね男前定食シビック」と6位#15「キチキチ キッシースターレット」は74Lapとここでも同一周回での争い。各々での順位争いは熾烈を極めるハイテンションバトルが続行中。

7位#22「NAHレーシングロードスター」は70Lapだが、#84「浜松日産withメビウスマーチ」は58Lapと周回が伸びてこないのが心配。

Race Report

■終盤

2時間経過でトップに立っているのは、#6「ベンズフレミング シビック」で107Lap、この時点で100周を超えるこれまでにないペースで周回を伸ばしていく。

2位は#19「YADOKARI シビック」だが、104Lapと少し離されたか。

3位はピットストップ中にブレーキパッド交換を敢行した#110「DXLアライメント 浜松シティー」。4位は#18「T-BODY エクセルインテグラ」で100Lap、こちらはすでに義務ピットを消化した模様であとは追い上げ体制に入るのみ。

5位は同じく100Lapで#15「キチキチ キッシースターレット」、こちらはあと一回のピットを残している。以下6位#9「くねくね男前定食シビック」、7位#22「NAHレーシングロードスター」というオーダー。#84「浜松日産withメビウスマーチ」は完調とはいかないまでも、完走を目指して走行を続けている。

■最終結果

この気が抜けないハイテンションバトルを制したのは、#6「ベンズフレミング シビック」、143Lapという史上最高周回を記録しての優勝は初めての頂点に花を添えた。2位は最後1周差まで追いつけた#18「T-BODY エクセルインテグラ」、3位は#19「YADOKARI シビック」が#110「DXLアライメント 浜松シティー」の争いを制して表彰台の一角をゲット、#110「DXLアライメント 浜松シティー」は35秒ほど及ばず4位。

5位は#15「キチキチ キッシースターレット」、今回唯一のトヨタ車で孤軍奮闘、6位は#9「くねくね男前定食シビック」、7位#22「NAHレーシングロードスター」と続き、#84「浜松日産withメビウスマーチ」は苦しいながらも見事完走で、ハイテンションバトル第2戦の幕は閉じた。



スターレットで奮闘 #15



しっかりとポイント獲得 #9



少しマシンが本調子ではなかった #84



予選から相手を意識したバトルが繰り広げられた



オープンレーシングカーは独特の魅力
75



Race Report



序盤はスプリントさながらのバトル

■総評

シリーズランキングでは、#6「ソーワエンジニアリング」と#110「アライメント浜松」が優勝+2位で40Pと同点(順位規定により#6が首位)、さらに#19「YADOKARI」が37Pでそれを追い、スターレットで奮闘する#15「カムレーシングワークス」が30Pで続いている。さらに開幕はリタイヤに終わった#18「T-BODY エクセルR」も今回2位に入りポイントを伸ばしている。

今回史上最高周回数を更新してのバトルの結果、上位4チームは140Lap以上をしてその差は3Lapという実に僅差の争いをした、他のクラスともども本当にどこが勝ってもおかしくない見ごたえ十分のバトル。

いよいよ次戦からは真夏の3.5H連戦、夏を制する者はシリーズを制する！

